

令和元年度 RPAによる作業自動化試行導入 報告書(概要版)

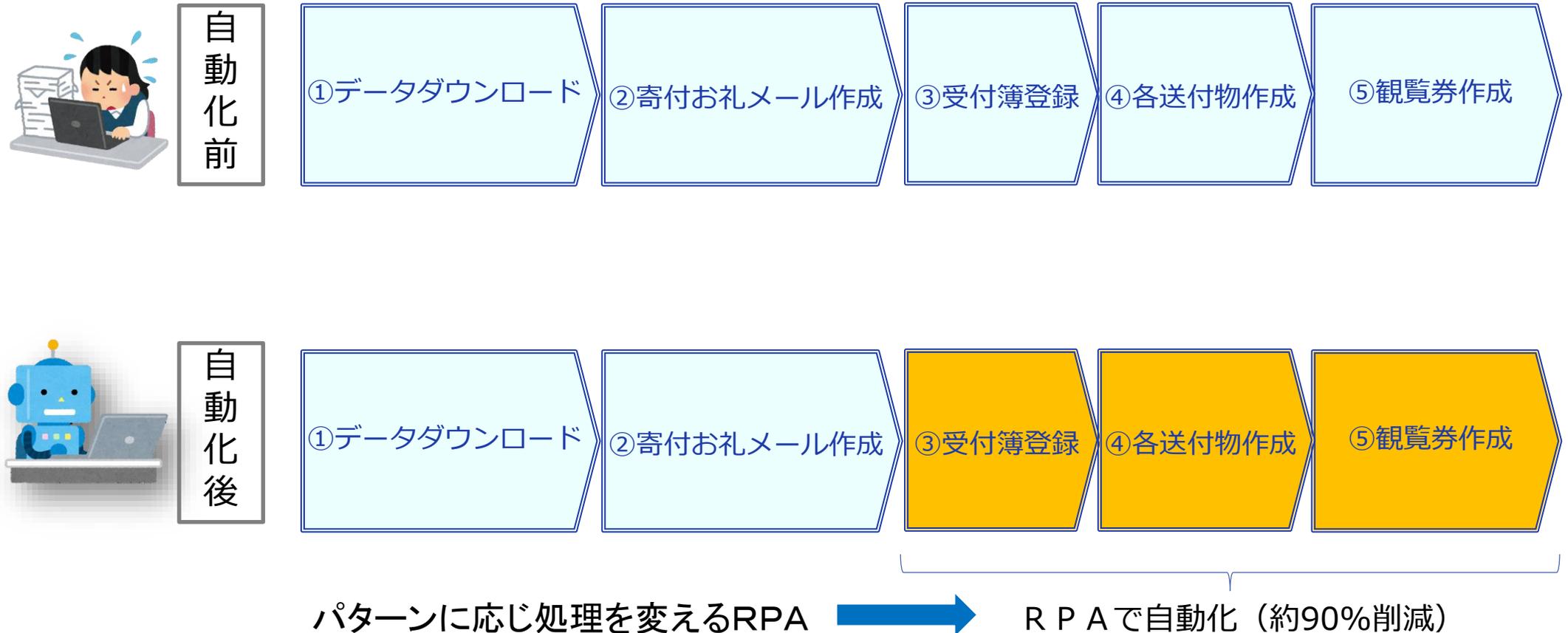
福井県 地域戦略部 統計情報課

試行導入対象業務一覧

No.	業務担当課	対象業務	業務概要
1	統計情報課	市町の報告データの統計表等の作成・登録業務	市町から提供される住民基本台帳の更新データをもとに人口推計に関する統計資料を作成する。
2	定住交流課	ふるさと納税寄付情報の登録・領収証明発行業務	ふるさと納税寄付者情報の台帳管理、受付簿登録、各種送付書類の作成・印刷を行う。
3	一乗谷朝倉氏遺跡資料館	報酬支払・旅費支払業務	財務会計システムで審査委員会、学識経験者等へ報償費を支払う。
4	県立病院	入札情報の入力業務	入札等の調達実施における必要情報を各システムへ登録する。
5	教育政策課	小中学校教職員旅費確認・支払業務	各小中学校より受領する旅費請求書の記載内容の妥当性をインターネット上の地図サービスを利用しチェックする。

試行導入業務の例（ふるさと納税関連業務）

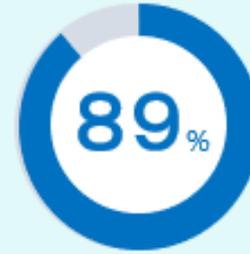
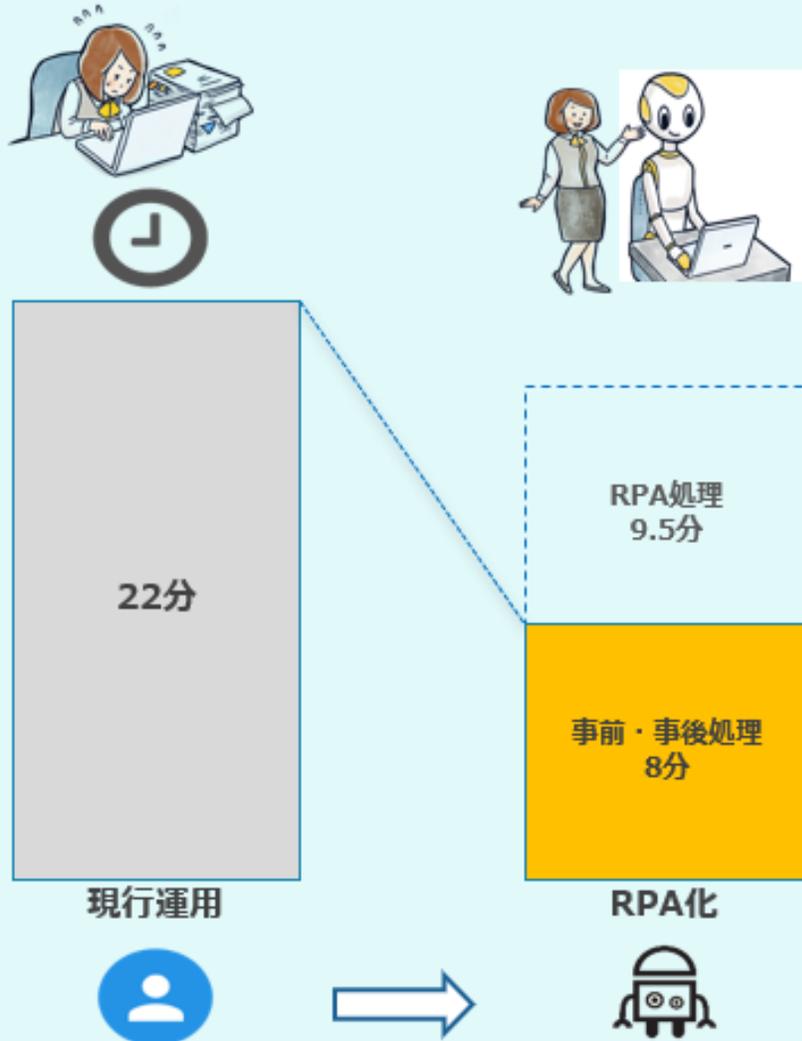
- 寄付金の納付方法や寄付内容に応じ、処理パターンを変えるRPAシナリオを作成。
- 大部分の手作業を自動化対象としたことにより、職員の負担が軽減。



試行導入業務の例（ふるさと納税関連業務）

現行運用とRPAシナリオ化後の比較

削減率・根拠数値



年間削減時間

276 時間

【算出根拠】

◆ 現行運用時間 / RPA実行時間

1件あたりの作業時間は以下の通り

現行運用処理時間 : 22分

RPA適用後処理時間 : 8分 ※RPA稼働時間を含まない

以下、時間内訳

	現行	RPA
共通作業	: 10分	: 8分 (申込件数によって変動しない作業時間)
個別作業	: 12分	: 0分 (申込件数によって変動する作業時間)

◆ 年間削減時間

年間削減時間は以下の通り

(作業日数240日(共通)、申込件数1,343件※(個別)) ※H30年度実績

現行 : (共) 10分×240回 + (個) 12分×1,343校 = 18,506分 (308時間)

RPA : (共) 8分×240回 + (個) 0分×1,343校 = 1,920分 (32時間)

(現行) 308時間 - (RPA後) 32時間 = ▲276時間 (89%)

試行導入業務の例（教員旅費支払業務）

- 紙となっていた請求書をExcel化、電話での問い合わせを電子メールに変更。
- 電子化を行ったことにより、RPA導入効果が一層図られた。



自動化前

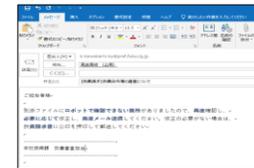
①小中学校から請求書（紙）を受領

②請求内容の旅行距離、金額の妥当性を地図ソフトでチェック、不備箇所の修正を電話にて小中学校へ依頼

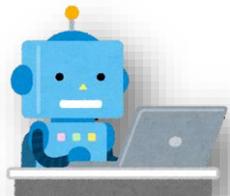
③小中学校から請求書（原本）を受領

請求書番号	申請日	申請者	申請内容	承認日	承認者
001	2023/01/01	田中 太郎	出張旅費	2023/01/05	山田 花子
002	2023/01/02	佐藤 花子	出張旅費	2023/01/05	山田 花子
003	2023/01/03	鈴木 一郎	出張旅費	2023/01/05	山田 花子
004	2023/01/04	高橋 美咲	出張旅費	2023/01/05	山田 花子

電子化



電子化



自動化後

①小中学校から請求書（Excel）を受領
※チェック段階はExcelで受け付ける

②請求内容の旅行距離、金額の妥当性を地図ソフトでチェック、不備箇所の修正をメールで小中学校へ依頼

③小中学校から請求書（原本）を受領

RPAで自動化（約90%削減）

試行導入業務の例（教員旅費支払業務）

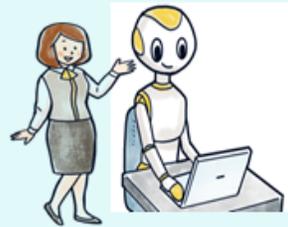
現行運用とRPAシナリオ化後の比較

削減率・根拠数値



115分

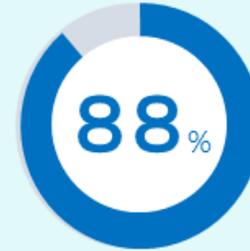
現行運用



RPA処理
20分

事前・事後処理
16分

RPA化



年間削減時間

4,160 時間

【算出根拠】

◆現行運用時間/RPA実行時間

1校あたりの作業時間は以下の通り

現行運用処理時間 : 115分

RPA適用後処理時間 : 16分 ※RPA稼働時間を含まない

以下、時間内訳

	現行	RPA
共通作業	: 25分、	6分 (学校数によって変動しない作業時間)
個別作業	: 90分、	10分 (学校数によって変動する作業時間)

◆月間削減時間/年間削減時間

月間削減時間は以下の通り (対象学校260校で算出)

現行 : (共通) 25分 + (個別) 90分 × 260校 = 23,505分 (391時間)

RPA : (共通) 6分 + (個別) 10分 × 260校 = 2,606分 (43.4時間)

年間削減時間は以下の通り (対象学校260校で算出)

現行 : (月間稼働時間) 23,505分 × 12回 = 282,060分 (4,701時間)

RPA : (月間稼働時間) 2,606分 × 12回 = 31,272分 (521.2時間)

(現行) 4,701時間 - (RPA後) 521.2時間 = ▲4,160時間 (88%)

実証結果

該当課名	RPA導入前 業務時間	RPA導入後 業務時間	削減率	削減時間
統計情報課	154	76	50.6%	78
定住交流課	308	32	89.6%	276
一乗谷朝倉氏遺跡資料館	10	3	70.0%	7
県立病院	171	50	70.8%	121
教育政策課	4,685	521	88.9%	4,164
合計	5,328	682	87.2%	4,646

- RPAツールを導入するだけでは効果は最大化できず、対象業務の選定や業務フローの見直しを行うことが重要である。
- 1業務で効果が高いものの、横展開することで効果が高いものがあり、短期的な評価だけでなく、中長期での評価を行いながら業務を選定する必要がある。